

特 別 委 員 会 調 査 報 告

令和 7 年 7 月 4 日

薩摩川内市議会

川内原子力発電所対策調査特別委員会

委員長 山 元 剛

1 委員会の開催日

6 月 3 0 日

2 川内原子力発電所の安全対策及び関連する諸問題に関する調査

(1) 川内原子力発電所の運転状況について

当局から、1号機及び2号機はそれぞれ通常運転中であり、気体・液体廃棄物の放出量は年間放出管理目標値を下回っていること、固体廃棄物の貯蔵率は76.4%であること、使用済燃料の貯蔵率は貯蔵容量に対して

77.2%であること、新燃料は76体を貯蔵していること、法に基づき国へ報告を要する事象は該当がないことについて報告があった。

(2) 令和6年度原子力総合防災訓練の振り返り及び令和7年度原子力防災訓練における改善について

当局から、訓練の振り返りと改善方針の策定、改善項目の分類と対応状況、住民アンケート結果について説明を受けた。

その後、委員から「原子力防災アプリについては、ダウンロード率を向上させるため原子力災害に限定せず、風水害・地震等も含めた総合防災アプリの開発を県へ提案してはどうか」との質疑があり、当局から「県との協議の中で提案してみたい」旨の答弁があった。

また、委員から「住民参加について「住民参加が少ない」「飛び入り参加ができない」などの声があることから、目標人数を設定するとともに、自由参加の仕組みを検討すべきではないか」との質疑があり、当局から「これまで地区を通じた募集を中心としているが、今後県との検討の余地はあると考える。日頃から多くの市民に興味を持ってもらって、訓練参加につながるよう取り組みたい」旨の答弁があった。

(3) 薩摩川内市原子力防災計画避難計画の一部見直しについて

当局から、見直しの背景、見直しのスケジュール、変更内容（湧水町の避難施設と収容人数の修正、自治会合併に伴う避難先の修正）について説明を受けた。

(4) 祁答院支所への原子力防災システム等緊急連絡設備の整備について

当局から、整備の目的、経緯、整備内容等について説明を受けた。

その後、委員から「祁答院支所が移転先である構想は以前からあったが、今まで整備していなかったということか」との質疑があり、当局から「以前から県へ要望しており、今回整備が実現した」旨の答弁があった。